

10月10日は目の愛護デー  
短頭種は眼科疾患にご用心！

眼科疾患の犬種別請求割合

順位	犬種	割合
1	ブルドッグ	32.09%
2	シー・ズー	28.57%
3	パグ	24.56%
4	ペキニーズ	23.15%
5	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	18.84%
6	ボストンテリア	16.13%
7	フレンチ・ブルドッグ	15.68%
8	狽(ちん)	14.77%

調査期間:2004年から1年間

割合=眼科疾患で給付請求した犬の犬種別頭数/犬種別加入頭数×100%

10月10日は目の愛護デー※。

そこで、犬の眼科疾患による給付請求のデータを検証したところ、全加入頭数 113,045 頭のうち 8.9%の 10,075 頭が治療を受けていることが分かった。

犬種別に見てみると、上位はブルドッグ、シー・ズーなどの短頭種といわれる犬種が占めていた。

短頭種は、鼻が短くて、目が大きく少し前に出ているという特徴を持ち、その為、目にゴミなどが入りやすく、傷つけやすいことが要因のひとつと考えられる。

犬は眼に違和感を感じると、前肢(まえあし)などで眼の周囲を触ってしまい、結果として、短期間で眼の症状が悪化することがある。眼科疾患を予防するためには、眼の周りを常に清潔にし、長毛の場合は毛が目に入らないように結んだり、カットの工夫をするなどが有効だ。

眼科疾患も早期発見、早期治療が最善策。日頃からこまめに、目の赤み、眼ヤニの量や色などをチェックし、異常がみられた場合は早めにかかりつけの動物病院に行くように心がけよう。

※ 「目の愛護デー」は10月10日の「10・10」を横に倒すと眉と目の形に見える事から制定された。